

みどりーむ 防災・減災講座「緑区の防災まちづくり座談会」

～防災は「まちづくり」であり、「人づくり」です～

日時 2013年7月14日(日)14時～16時30分 みどりーむ

第一部「東日本大震災から2年 被災地の今を緑区に伝えよう！」

◆ 宮城県石巻・女川調査 田中 晃さん

被災地の現状が発表された。

① 津波による被害の大きさとコミュニティが喪失し、遅々として復興・復旧が進まない現状を、パワーポイント画面で説明された。

② 震災時の事実を共有化した。

i 避難所生活の大変さ

ii 空き地での避難生活の現実

iii トイレ問題にどう取り組んだか

iv 被災後の弱者といわれる方々の生活

③ 復興商店街などへの自立支援活動

i マatching団体が活躍していた。

ii 支援活動が色々紹介された

○ お店への応援（機材の提供、お手伝い）

○ 買い物や食事、献金、牡蠣オーナー制

○ 活動団体の派遣、代理販売など



報告1 中村茂久さん

① 宮城県山元町に、9回労働ボランティアに入った。6強の地震後10mの津波で、イチゴのビニールハウスのシートやパイプが1mほども埋まり、一つづつ片付けた。今では草が根を張り、掘り起こすのが大変である。

② 仮設住宅のお年寄りは身内の方がなくなり、話し相手を欲しており、聞き役をしている。



報告2 吉開真理子さん

① 大震災発生後の5月連休に旅行、福島郡山のホテルで沢山の応援者から話を聞いた。

② 翌日中尊寺にいった処、観光客がほとんど訪れず歓迎され、たまたま朝日放送の取材番組で全国放送された。

③ 鹿児島島の仲間から毎年東北に行こうよ、との声かけで、復興支援ツアーを行っている。



第二部「緑区防災計画(震災対策編)の修正&市民憲章の制定」

芹沢幸人さん＝緑区役所総務課 危機管理担当係長

① 「緑区防災計画」を見直した。被害想定は、元禄型関東地震の場合、緑区では震度6弱が大部分、一部に震度5強の地震マップが示された。

② 「よこはま地震防災市民憲章」をつくった。「私たちの命は私たちが守る」行動指針では、少なくとも3日分の飲料水や食料のほか「トイレパックを備蓄」、「避難生活は力を合わせて助け合う」、「隣近所の助け合い」など、市民の取る活動姿勢が明示された。

③ 行政は、震災後3日間は応急対策に徹し、不可欠な窓口業務だけを行う。このため、区民は3日間は頑張ってもらいたい。

④ 医療提供体制の見直しを行い、軽度の負傷は区民や保健師等による自助共助、地域防災拠点等では医療救護隊による治療災害時救急病院や災害拠点病院で対応することとしている。

地域では、自分たちで被災者を運んだりして、主体的に活動してほしい。



第三部「防災まちづくり座談会」

～白山地区防災まちづくりの取組み＆「講師を囲んで防災談義」～

●講師 山口 章さん（白山地区連合自治会・会長） 進行 池田邦昭さん

① 白山地区では、被災時の対応をどう当てはめるかに取り組んだ。このため、神奈川大学の防災塾・だるまの活動にも参加したりして防災活動に取り入れている。

② 「リーダーの質」の向上と、自分の地域で「自助」と「共助・近助」で生き抜くことを目標としている。防災は「まちづくり、ひとづくり」であり、防災コミュニティの醸成にもつながる。



●会場と講師団との意見交換

○訓練では「起る危険なことをイメージすること」が大切。仲間と相談し合いながら、災害にどう備えるかを論議してほしい。

○自治会長は、危機管理の視点で役員が「気づいてくれる力を蓄えること」が必要だ。防災訓練により、リーダーの役割が何かを身に付けることを期待している。

○避難所の備蓄は、1千食分のクラッカーやパン、水缶詰もあるが1日分しかない。学校の地下のタンクからの水も利用できる。霧が丘の配水池では水を配る。給水車活動もある。

○家具転倒防止の対策については、DVDにまとめたものを各自治会長に配ってある。総務省消防庁のホームページからもダビングできるので活用してほしい。

○東北の事例では、助かった人が水に浸って、寒さで亡くなった方がいる。

○医療対応を今回見直したが、「トリアージ」を知っていますか？。多数の死傷者が出た時、限られた時間に優先度分類をすること。大声で助けを求めている人だけを対象とせず、冷静に判断できる訓練をする必要がある。

○現金を持つこと。食料が不足時に購入するには現金が必要になる。

○木造住宅が多い地区では火事が心配だ。狭い道が避難の邪魔をする。

◆ アンケート結果

印象に残ったこと(2件以上)

・白山地区の防災まちづくりについて(9件) ・備蓄は必要である(4件) ・緑区の災害計画がよくわかった(3件) ・暮らしに密着した質疑応答が良かった(2件) ・被災地の近くへの旅行もボランティアになる(2件) ・別の場所にいる時に災害にあう可能性が高い(2件)

防災・減災の講演会で、取り上げてほしい内容

災害避難所について12件 防災訓練について9件、首都圏直下地震8件、火災について8件、災害要援護者対策について6件

22項目の自由な意見で参考になるものの例

・家庭内の取組みが第一である ・自助、近助の必要性を強く感じた ・防災訓練の参加は大切だ ・災害時の情報管理は大切だ ・地域のつながりを深める必要がある

提案: ・具体的な対応のQ&Aをやってほしい ・家具固定の実習をしてほしい

心構え: ・白山地区の防災まちづくりの取組みを参考にしたい ・改めて災害について考えるきっかけになった ・緑区内でも地域差を大きく感じた ・このような講座は何回も聞きたい ・自助・共助の意識を高めておくことが必要だと再度認識した